

耕作放棄地での楮栽培

目的：耕作放棄地等を活用して楮を栽培し、その繊維を活用して布づくりのための糸を製造すること、バイオプラスチック等の新商品を開発し、中山間地域での産業振興を図ること。

効果：耕作放棄地対策、所得向上・雇用促進、SDGs 貢献など

場所：岡崎市東河原町地内（植栽地）

用地選定

試験栽培地は、地域内の耕作放棄地から選択した。この用地は、過去に水田として利用されていた場所である。耕作放棄地の活用を図る中で、水田として利用されていた場所が多く、その活用方法を確立することが、対策として効果が高いと考えられる。

一方で、水田だった場合透水性が悪く、植物の生育にとってはマイナスである可能性が高い。透水性及び硬度試験を実施し、楮の栽培に向けて、どのような処理を行うべきか検討を行った。

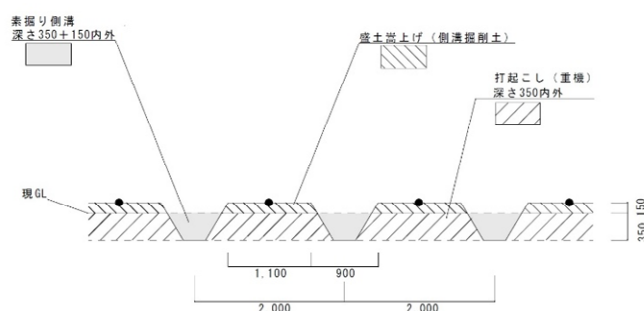


土壌調査・改良

土壌調査の結果、試験栽培を行おうとする用地は、固結しており、透水性も悪く、そのままでは楮を育成することは難しいことが予想された。

そこで以下の2点を実施した後に植栽を実施することとした。

- ①打ち起こし：固結土壌をほぐすために、30 cm以上深を打ち起こす。
- ②畝立て：透水性不良を解消するために、素掘り側溝を設け、その際の掘削土を盛土することで、30 cm程度の高さで畝を施工し、植栽箇所とする。



畝立てイメージ図

植栽

楮苗木（H = 0.5 程度）を 2 m 間隔で植栽した。

樹木と擦れて傷ができ、繊維採取に悪影響が出る可能性を考慮して、支柱は設置していない。

今回植栽した本数は 200 本である。



獣害防止柵設置

シカの食害を防ぐため、獣害防止柵として金網（H = 2.0m）を設置した。

この際に、数本を柵の外にして、シカの食害を受けるのか観察を行った。

結果として、柵外の楮は、シカの食害により葉が失われた。



当初



ほぼ 1 カ月後には葉がない状態

育成管理

今回、準備時間などにより、植栽時期が7月に入ってしまったためかあまり伸長せず、H=0.7程度にしかならなかった。

今後生長度合いを経過観察しながら、施肥手法などにより、さらに効果的な管理手法を検討し、良好な育成を図っていく。



※施肥等

マルチングとしてもみ殻、竹チップを樹木周辺に敷き均すとともに、化成肥料を施した。施肥量などは畝ごとに变えており、今後の生育状況を経過観察する。

